

協働の取組みに参加した皆さんの感想



小学生向けに出前講座をしました

協働やまちづくりへの意識を、幼い頃から身近に感じられるように、小学校で協働についての授業を行いました。

授業を終えた時、そこには「子どもだからわからない」ではなく、「子どもでもできる」と感じてくれている児童のまなざしがありました。

「協働」とだけ聞くと難しく感じますが、「今の自分にもできることがある」と考えてもらうきっかけになったと感じています。

協働とはどういうことなのかを考えることが、自分ごととして行動していく第一歩ではないかと思えます。



市職員向けの研修に講師として参加

はぐくむ委員会が企画した市職員向け研修に講師として参加しました。

研修をする中で、市民と職員がそれぞれの立場から率直に話し合う様子を見て、対話の重要性とそこから生まれてくる協働の可能性を強く実感しました。

正解のないまちづくりにおいて、こうした対話は欠かせません。人口減少や高齢化が進む中、地域の力を生かした取組みはますます重要になってきます。今後もお互いの取組みを学び合い、市民と行政が共に歩むまちづくりを進めて参りましょう！



自分ができることから――。

はぐくむ、ひろがる、協働の輪

少子高齢化や地域コミュニティの希薄化が心配されている中、市民と行政が力を合わせてまちづくりを進める「協働」という考えが広がっています。住み慣れた地域で、みんなで支えあい安心・安全な生活をおくれるまちを目指すため、自分にできる身近なことを探してみませんか。

【地域振興室】



まなびの日のボランティアとして参加

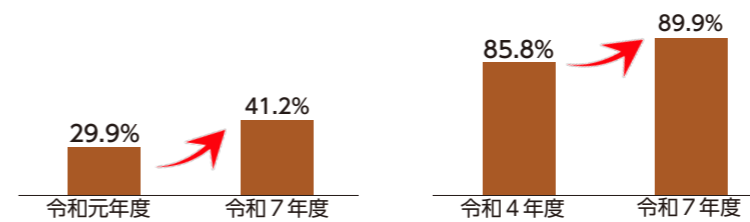
私は結婚を機に橋本市で暮らし始めました。ある日、「自分の住んでいるまちのことを全然知らないな」と思い、橋本市について調べてみると、市の魅力や課題など、新たに知ることがたくさんありました。

そんな中、ボランティア募集の情報を見て、「すこやか橋本まなびの日」のはぐくむ委員会ブースの運営に参加しました。

当日は少し不安もありましたが、自分なりにやりきり、参加したことで地域の人とのつながりが広がったと、やりがいを感じました。

多くの方は、「まちづくりやボランティアをする時間なんてない」と思っているかもしれませんが、市のホームページや広報紙を通じて、まちのことを知るだけでも、大切なまちづくりの一歩になると私は思います。

はぐくむ条例の認知度



市では、市民の皆さんや行政などが互いに協力し合う協働のまちづくりを進めていくため、平成31年に「橋本市の自治と協働をはぐくむ条例（はぐくむ条例）」を施行しました。それ以降、はぐくむ条例や、協働の考えを市民の皆さんに幅広く知っていただくために、さまざまな取組みを進めています。活動を通じて、少しずつ協働に対する理解と輪が市内で広がってきています。

協働への認知を広げる

はぐくむ委員会の取組み

こんな活動も協働です

- 子ども食堂で食事の配膳
- イベントの運営ボランティアに1日だけ参加
- 地域の清掃活動に参加する
- マラソン大会で、ランナーの安全を見守る、声援を送る
- パブリックコメントに参加する など



協働は難しくない

上で紹介した皆さんの取組みは、自身の経験やスキルを活かした、とても心強いものです。一方で、感想を読んで「自分には同じような活動は難しいかも」と感じる人もいるかもしれません。しかし、協働のあり方は一つではありません。専門的な知識や大きな責任を必要としない、身近で小さな取組みもまた、大切な協働のひとつです。



- 「はぐくむ委員会の会議を実施
- 「みんなあつまれ！橋っ子祭り」で「協働のまちづくりすくろく」を配布
- 「すこやか橋本まなびの日」でブース出展
- はぐくむサポーターの交流会を開催
- 自治と協働の職員研修を実施
- 出前授業を市内小学校で実施
- 「こどもパンフレット」を制作、配布 など

「橋本市の自治と協働をはぐくむ委員会（はぐくむ委員会）」は、はぐくむ条例の検証や見直しを行いながら、協働の考えを市内に広げる取組みを行なっています。